

平成 22 年度協働事業実施に係る
提案の審査について

答 申

平成 22 年 7 月 20 日

水戸市協働推進委員会

平成 22 年度協働事業実施に係る 提案の審査について（答申）

目 次

	ページ
提案事業審査結果	
審査結果及び講評	1
各事業の概要及び委員会意見	2
選考過程 基準	6
委員名簿	7

審査結果及び講評

【 審査結果 】

本委員会における審査の結果は、次のとおりである。

採択とする事業

- 千波湖親水デッキでの市民環境学習会
- 対人関係により心に悩みを抱える子どもへの家庭教師派遣とアートセラピー事業
- 常照寺のホタル発生地の地域協働による維持管理保全
- 子どもを見守るCAPワークショップ
- 栗崎町里山道路の整備・除草及び不法投棄物の排除
- 「水戸シニアITリーダー（仮）養成」並びに「シニア初心者IT普及」

不採択とする事業

- 「偕楽園なんでも百科」（仮称）の発行

【 講評 】

平成22年度の募集に対しては、環境及び福祉分野で各3件、教育分野で1件、合計7件の協働事業が提案された。

環境の分野で提案された「千波湖親水デッキでの市民環境学習会」は、千波湖に新しく設置された親水デッキを利用して環境学習会を開催するという事業である。学習の題材や日程など、具体的な計画が提案されており、実現可能性や先見性などの面から高い評価を受けた。福祉の分野では、「対人関係により心に悩みを抱える子どもへの家庭教師派遣とアートセラピー事業」が、先見性や独創性、ニーズの有効性などの面で高く評価された。

各事業はすべて、団体の熱意が感じられるすばらしい提案であったが、いずれも、実施後のフォローアップを欠かさないように注意して進めていくことが望まれる。

さらに、事業の実施にあたっては、引続き市の担当部署等と十分協議し、特に予算面についてはできる限りスリム化し、補助金の適正な運用を心掛けていただきたい。提案団体と市の担当部署とがパートナーとして、事業内容をさらに向上させ、より公益性の高い事業として実施することによって、市民と行政との協働によるまちづくりが実践されていくことを期待する。

各事業の概要及び委員会意見

提案事業名	千波湖親水デッキでの市民環境学習会	採択 (275点)
提案団体	社団法人茨城県公害防止協会	市の担当課 環境課
事業の概要	10回の計画で、千波湖親水デッキで環境学習会を開催する。水、鳥、昆虫、植物、水生生物の各分野に詳しいスタッフが、講師として参加する。水戸市のシンボルである千波湖で環境学習会を実施することによって、自然と環境保全の大切さや、千波湖や桜川の水質浄化対策の現状について知ってもらう機会とする。	
委員会意見	環境学習会を通して自然環境への理解を深め、環境保全の意識を高めることを目的とした本事業は、市民と行政とが協働で取り組むことにより、より大きな効果が期待できる事業である。収支計画について、参加者の保険加入を予算計上していないが、自己責任に任せるだけでなく、主催者として参加者の安全確保に努めてほしい。また、経費については十分精査し、さらなる予算のスリム化を検討していただきたい。	

提案事業名	対人関係により心に悩みを抱える子どもへの家庭教師派遣とアートセラピー事業	採択 (252点)
提案団体	特定非営利活動法人ウィメンズネット「らいず」	市の担当課 子ども課
事業の概要	<p>1 学生による「メンタルフレンド」の派遣 対人関係が原因となって心に傷や悩みを抱えている子どもや、学校で孤立しがちな児童・生徒のもとへ、「メンタルフレンド」として、学生による家庭教師を月2回程度派遣する。</p> <p>2. 子ども向けアートセラピーの実施</p>	
委員会意見	提案団体の専門性と実績を生かした事業であるとともに、市の担当課でも必要性を強く感じている現状から、協働事業として提案されたものである。市民ニーズに的確に応えた事業として実施されることを期待したい。また、事業実施後においても、必要に応じて提案団体や市の担当課が継続して関わっていけるようフォロー体制を作っておくよう心掛けてほしい。	

提案事業名	「偕楽園なんでも百科」(仮称)の発行	不採択 (211点)
提案団体	偕楽園公園を愛する市民の会	市の担当課 文化課, 総合教育研究所
事業の概要	偕楽園公園の魅力を多面的・多様に紹介した冊子を作成する。図や写真を中心に, 読みやすい解説文を付け, 子どもから大人まで楽しむことができる読本形式にする。子どもたちにも分かりやすく, 読みやすい内容とすることで, 偕楽園や千波湖を大切に, 愛護する心を育むことにつなげる。	
委員会意見	偕楽園は本市の重要な資源であり, これを生かそうとする提案は高く評価された。しかし, 本提案内容では, 観光パンフレットやガイドブックなど, すでに作成されている情報誌と重複する印象を受けた。他の出版物との差別化を明確にし, 例えば, 編集に子どもたちを参加させたり, 外国人向けに多言語化したりするなど, 新しい取組みや切り口での再提案を期待する。	

提案事業名	常照寺のホタル発生地の地域協働による維持管理保全	採択 (231点)
提案団体	茨城生物の会	市の担当課 公園緑地課, 環境課
事業の概要	<p>1. ホタル生息地の維持管理</p> <p>現在未利用となっている常照寺周辺の市有地において, 周辺住民や小学校と協力して除草作業などを行い, ホタル生息地として保全する。</p> <p>2. パンフレット作成及び学習会の開催</p> <p>ホタル保全と, 生息地としての維持管理の必要性について, パンフレットを作成し, 学習会を開催する。</p>	
委員会意見	継続することが重要な事業であることから, 市民と行政との協働事業での取組みがふさわしいと考えられる。収支計画では, パンフレット作成などの予算が補助対象経費の大部分を占めているが, ホタル生息地の保全活動に直接必要となる部分に予算付けし, その活動実績に見合った支出となるよう再検討してほしい。また, 市民活動がさらに広がれば, 市としても, 担当課で予算化するなどのバックアップを検討していただきたい。	

提案事業名	子どもを見守るCAPワークショップ	採択 (236点)
提案団体	NPO法人水戸こどもの劇場	市の担当課 子ども課
事業の概要	<p>1 CAP大人ワークショップの実施 子どもに携わる多くの方々を対象に、子どもへの暴力防止プログラム(CAP)の大人ワークショップを市内の14小学校区で開催する。</p> <p>2. 市職員(保育士)を対象とした大人ワークショップの実施</p>	
委員会意見	<p>提案団体の熱意は伝わったが、CAP大人ワークショップを受講することによる効果がわかりにくいとの意見もあった。提案団体には、講師としてさらに研鑽を積み、より良いプログラム展開を期待したい。また、本事業による効果を確認するためにも、事業実施後には評価も重要である。その上で、今後の事業展開について、市の担当課とも協議しながら進めていただきたい。</p>	

提案事業名	栗崎町里山道路の整備・除草及び不法投棄物の排除	採択 (247点)
提案団体	グリーンパーティ栗崎	市の担当課 道路管理課, 清掃事務所
事業の概要	<p>1. 不法投棄されているゴミの除去・処分 栗崎町内の市道に不法投棄されているゴミを、自治会と協力して運び出し、市が適正に処分する。</p> <p>2 不法投棄を抑制するための看板製作 今後の不法投棄を抑制するため、町内で募集 選考した標語の看板を製作し、道路沿いの土地に設置する。</p>	
委員会意見	<p>不法投棄物処理の問題が本制度になじむのかという意見や、補助金を用いることへの疑問の意見もあったが、市民のゴミ問題への意識啓発につながることを期待したい。経費については精査が必要であり、市の担当課と十分協議し、補助金の適正な運用を求めたい。ゴミの不法投棄は社会的課題となっており、本制度の適用については、事業の成果を見ながら総合的に検討する必要がある。</p>	

提案事業名	「水戸シニア I T リーダ（仮）養成」並びに「シニア初心者 I T 普及」	採択 (224 点)
提案団体 シニアネット水戸	市の担当課 高齢福祉課	
事業の概要	<p>1 水戸シニア I T リーダ（仮）養成 パソコンやインターネットの技術及びその教授法を学ぶ講座を開催し、修了者に対して市が修了証を発行する。</p> <p>2 シニア初心者 I T 普及 市民センターなどを会場として、シニア層の講師による、シニア層の初心者向けパソコン教室を開催する。</p>	
委員会意見	<p>民間に類似の事業が認められるが、市の担当課でも市民ニーズを強く感じている現状があり、協働事業として提案されたものである。高齢者の要望に応えることができるよう、具体的な実施計画を作成するなど、市の担当課と十分協議しながら進めていただきたい。収支計画では、参加者の受講料が収入の 3 割強を占めていることから、経費を精査することが必要である。</p>	

※各事業の講評は、協働事業提案書の受付順。

選考過程 基準

【 選考過程 】

事前に配布された協働事業提案書をもとに、7月6日に開催された公開プレゼンテーションにおいて、事業の概要や協働による効果、役割分担、収支計画などについて、提案団体から説明を受けた。また、提案団体及び市の担当課に対して、委員による質疑応答を行った。

その後、全体での審議において、全委員の総合得点をもとに、各提案事業について、公共性や協働の必要性などの面から、協働事業として実施すべきか否かについて審議した。また、効率性や役割分担など、事業に取り組むにあたって、提案団体と市の担当課とがさらに協議を深めるべき事項について意見した。

【 選考基準 】

提案書類と公開プレゼンテーションをもとに、8つの評価項目に沿って採点した。

各委員の持ち点を40点とし、全委員の採点を合計した総合得点を審査の基礎とした。

なお、提案団体の家族、親族、関係者である委員は、公平性の観点から当該提案事業の審査は行わず、他の9名の委員による採点の平均点を加算して、得点を調整することとした。

評価項目及び評価の視点（40点満点）

評価項目	評価の視点	配点
先見性・独創性	新たな着想や創意工夫があるか	5
事業の公共性	不特定多数の利益，社会全体の利益につながるか	5
ニーズの理解	社会的課題や市民ニーズをとらえているか	5
協働の必要度	協働による相乗効果が期待できるか	5
事業の将来性	成果の活用や波及効果など将来展望が明確か	5
手段の効率性	労力や経費などの見積りが適切か	5
役割分担	自立性を尊重し，お互いの長所を生かしているか	5
実現可能性	自己資金の確保や企画内容が実現可能か	5

水戸市協働推進委員会委員名簿

氏 名	所属等
委員長 金本 節子	茨城大学 人文学部教授
副委員長 奥山 眞知	常磐大学 人間科学部教授
山形 剛生	商工会議所 振興部長
佐藤 光佑	水戸農業協同組合
大和田 佳典	水戸青年会議所 監事
安島 茂雄	水戸市住みよいまちづくり推進協議会 副会長
横田 能洋	茨城NPOセンター・commons 事務局長
平沼 賢治	水戸市ボランティア連絡協議会 副会長
飛田 和郎	公募市民
加倉井 悦子	公募市民